

平成28年度探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業（学校図書館活用型）

研究のキーワード

- 主体的・協働的に学ぶ授業づくり
- 資質・能力を育てる「総合的な学習の時間」の実践

研究成果のポイント

- 記述式問題の目標指数の達成
めあてや振り返り、学びの過程が分かるノート指導
- アンケート結果に見る教員及び生徒の意識の向上
本校スタンダードの徹底や生徒たちが主体的・協働的に取り組める授業研究
- 教科で培った力を「総合的な学習の時間」に生かす取組の推進
総合的な学習の時間と教科との関連が分かるカリキュラム作成

1 主な取組（平成28年度）

- （1）各教科において主体的・協働的に学ぶ探究的な授業のあり方に
 - ①各教科との関連を明確にしたカリキュラムの作成
 - ②図書館資料や新聞を活用した授業と言語活動の充実
- （2）探究のプロセスを通じて資質能力を育てる総合的な学習の時間のあり方
 - ①各教科との関連を生かす
 - ②地域との連携や外部人材の活用を図った単元開発

2 具体的な研究活動（研究内容・方法、研究を進める上での工夫点等）

- （1）「各教科において主体的・協働的に学ぶ探究的な授業のあり方」の研究について
 - ①各教科との関連を明確にしたカリキュラムの作成
 - ・4月4日の校内研修で本事業の趣旨（何を、どのように取り組んでいくのか）を提案
 - ・校内教科部会の充実を図るため、2学期以降、主幹教諭を交えた教科部会を持つこととした。また、教科部会実施の際には、西部教育事務所の指導主事の指導・助言を得て、授業改善や学力向上の取組につなげた。
 - ・各教科で学校図書館を活用した「調べ学習」や「課題解決的な学習」を行い、それらで培った力や技能を「総合的な学習の時間」に生かすことを目指して取り組んだ。今年度は、その取り組みの計画表を、全教科・領域の実施単元と時期が一目見て分かるような様式に改良した。また、内容についても教科部会や領域部会で検討し、改善を図った。【別紙資料1：「学校図書館や図書資料・NIEを取り入れた学習計画表」】
 - ・教科ネットワークとして、年間4回以上の計画で、大月中学校・三原中学校と教科会を持った。生徒の習得状況を適切に見取る方法についてについて、各校、生徒の授業用ノートや定期テストを持ち寄って協議した。また、深い学びにつながる授業実践のために何が必要であるか、教科の特性を踏まえながら討議・研究を行った。
 - ②図書館資料や新聞を活用した授業と言語活動の充実
 - ・年度当初に提案した図書館の年間計画を基に実践し、教科部会で検討・確認後、その修正案を「学校図書館や図書資料・NIEを取り入れた学習計画表（別紙資料1）」に加筆した。

- ・校内研修計画に推進教諭の伝達・講話の時間を設定し、本事業に対する趣旨理解を深めるよう継続的に取り組んだ。
- ・校内研修の全体会で、言語活動の充実を図るための方策として、「ノートや振り返りシート等に、授業で理解したことを自分の言葉で書かせる」ことを提案し、各教科部会で取組を推進した。
- ・図書館資料として、10種類ほどの国語辞典を購入し、辞典を利用する場合は、必ず2種類以上引くことを意識させた。
- ・他の出版社の教科書や副読本の資料集、便覧を図書館で購入し、複数の資料を比較、検討して読むことにより、課題を見つけたり、解決したりする活動に使用できるようにした。

(2) 「探究のプロセスを通じて資質能力を育てる総合的な学習の時間のあり方」の研究について

①各教科との関連を生かす

- ・「学校図書館や図書資料・NIEを取り入れた学習計画表（別紙資料1）」を作成し、各教科と「総合的な学習の時間」相互の取り組みが分かるよう視覚化した。
- ・教科部会において、「どの教材で、どのような知識・力を身に付けさせるのか」という視点で教材研究を進め、次年度の年間計画に反映できるよう取り組んだ。

②地域との連携や外部人材の活用を図った単元開発

- ・防災に関する学習課題を探究する中で、各地区の区長さん、民生委員さんとの連携を深めた。
- ・第2学年の「職場体験学習」、第1学年の「チャレンジデー」の取組を通して、地域の魅力と人材を発掘した。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

○高知県学力定着状況調査における目標指標達成

- ・記述式問題県平均プラス5P以上：第1学年国語科、第2学年国語科・社会科・理科
- ・国語科において「ノート活用の充実」を目指したこと、また、各教科の定期テストに記述式問題を取り入れてきたこと等が、生徒たちの「書く力」の向上につながった。

○「授業改善の進捗状況」及び「総合的な学習の時間で育った学力」に係るアンケート結果における目標指標の達成

- ・教員の授業改善に対する意識が向上したことや、各教科で学んだことを総合的な学習の時間に生かすという意識を持って取り組んだことにより、総合的な学習の時間の授業改善も進み、多くの生徒が課題に対して主体的・協働的に取り組むようになった。
- ・総合的な学習の時間における教材及び人材の開発によって、座学だけでなく地域や他県へ出て学んだことを基に、異学年や地域の人前で発表したり、郷土への熱い思いを抱いた人たちの話を聞いたりする活動ができるようになり、生徒たちの主体的・協働的な学習に対する有用感につながった。

○教科で培った力を「総合的な学習の時間」に生かす取組の推進

- ・各教科で図書館や図書資料、新聞活用に取組んだり、調べ学習を実施したりする単元と時期を計画表に明記することにより、「総合的な学習の時間」との相互の取り組みが分かるようになった。そのうえで総合の実施にあたりさらなる工夫改善ができた。
- ・教科部会において、「どの教材で、どのような知識・力を身に付けさせるのか」という視点で教材研究を進め、次年度の年間計画に反映したことにより、・・・。

○各教科担当の教材開発・教材研究における主体性の向上

- ・前年度までの「ことばの力育成プロジェクト推進事業」の研究を土台として、図書館担当教員（推進教諭）が年間計画に基づいて進捗管理及び支援を継続することにより、各教科担当が自ら教材を選択し、活用する姿が見られるようになった。
- ・学習の導入において、生徒の興味・関心の喚起を目的とした新聞記事の積極的活用場面が増え、生徒の授業力チェックシートの肯定的評価向上につながった。

(2) 課題

○高知県学力定着状況調査における経年比較で改善傾向が見られなかった。

- ・各教科の分析から見えてきた課題
- ①解答条件を踏まえて解答できていない、読み取りに弱さがある等、基礎学力の定着が不十分である。
 - ②問題の終わりに行くにしたがって無解答率が県平均を超えており、最後の問題までいきつけない生徒がいることもうかがえる。一定量の文章を制限時間内に読むことや、初読の文章を目的意識を持って読むこと、複数の資料を関連付けて考えること等に弱さがある。

(3) 課題に対する次年度の重点的な取組（改善策等）

①②の課題克服のためには、「教科の特性に興味を持ち学習したくなるような課題設定」「身に付けなければいけないと思わせるような学習の有用感を高めること」また、「定着を確かなものにするための家庭学習」が必要であると考え。そのために、教科部会の充実、授業スタンダードの見直しや徹底、一人2回以上の校内公開授業や、研究授業による授業改善が必要であると考え。また、家庭学習の定着・充実のために、学び部会を中心に課題の質や量の検討を行い生徒会活動を活性化しながら、家庭学習定着の徹底をめざす。